

IV 2014 年度（平成 26）年度「オープンクラス」実施報告

1. 実施概要

オープンクラスによる相互授業参観は、教員同士が互いの授業を公開し授業内容や方法について検討しあうことによって、授業方法に関する知識や技能を共有できるなど、多くのメリットがあることから、本学では 2011（平成 23）年度よりオープンクラスを実施し、一部の専任教員の授業を教職員に対し公開してきた。

2014（平成 26）年度は、昨年度より引き続き、前後期各 2 週間のオープンクラス・ウィークを実施した。オープンクラス・ウィーク期間中は、原則として全ての授業を、本学の教職員と学生を対象に公開した。授業参観者から提出されたコメントシートの内容は、授業担当教員へ伝えられた。

2014（平成 26）年度「オープンクラス」実施状況

オープンクラス・ウィーク実施期間	のべ参観者数	参観者コメントシート提出数
6 月 16 日（月）～ 6 月 28 日（土）	45	53
10 月 27 日（月）～11 月 10 日（月）	23	25

2. 現状と今後の課題

2014（平成 26）年度「オープンクラス」参加者の人数を見ると、前期はのべ参観者数が 45 名、参観者コメントシート提出数が 53 シート、後期はのべ参観者数が 23 名、参観者コメントシート提出数が 25 シートである。2013（平成 25）年度（前期の参観者数が 69 名、後期が 18 名）と比較すると、2014（平成 26）年度前期は減っているが、後期は増えている。この増減の理由ははっきりとはわからないが、後期に増加したのは、実施期間を変えたことが一因かもしれないと考えられる。前期は昨年度とほぼ同じ時期に実施したが、後期は昨年度 11 月下旬であったのを今年度は 10 月末から 11 月初旬に設定している。しかし、昨年度よりは前期と後期の参観者数の差が縮まっているものの、依然として後期の参観者数は前期のほぼ半数であり、なぜ後期になると半減するのかを分析する必要があるだろう。

2013（平成 25）年度から専任教員のみならず非常勤講師を含めた全ての授業を「オープンクラス」の対象としたこと、また授業の一部の時間のみでも参観可としたことで、参観がしやすくなっていると思う。またコメントシートを通じて、参観する側と参観される側の間にコミュニケーションが可能となっており、互いに学びの場が形成されているともいえる。一方、専任教員には「オープンクラス」参加を義務付けているものの参加者の数が伸びないのは、多忙などを理由に参加していない教員がいるからであろう。今後の課題として、教員のさらなる参加を促すとともに、「オープンクラス」実施が授業改善に具体的にどのように役立っているのかを検証していく必要がある。

文責：鷺見 朗子（人間文化学部人間文化学科 FD 委員）